

日病薬の最近の動き(4)

国際交流委員会の活動報告 (2005～2007)

国際交流委員会

委員長 松原 和夫

はじめに

2006年4月から、前名古屋大学医学部附属病院薬剤部長の鍋島俊隆教授の後を受け継いで国際交流委員会の委員長となった。国際交流委員会の仕事は、1) 日本病院薬剤師会(以下、日病薬)の活動を海外へアピールし連携を保つこと、2) 海外で展開されている新しい病院薬剤師業務を日病薬の会員に紹介すること、3) 若手薬剤師に国際性をもたせる機会をつくることなどである。2007年度からはこれまでの国際交流委員会の仕事に、国際交流事業団(以下、JICA)の発展途上国の病院薬剤師に対する研修事業を受け持つ仕事が付け加わった。国際交流委員会の事業は継続性をもったものであり、2004年度までの事業の内容については2005年の日本病院薬剤師会雑誌(以下、日病薬誌)第41巻7号pp. 887-893に鍋島前委員長がご報告なさっているので参照していただきたい。本誌面では、鍋島前委員長の報告を受け継ぐ形で2005年および2006年度の国際交流委員会事業の報告をする。

厚生労働科学研究費補助金事業

1998年から厚生労働科学研究(当時は厚生科学)の医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業(現在名)の一環として、鍋島前委員長を責任者として行っている事業である。詳しくは、前述の日病薬誌に鍋島前委員長がその経緯をお書きになっているので参照されたい。プロジェクト課題名は、経年度あるいは単年度で異なる。しかし、基本的には日本の病院薬剤師のレベルアップを図るために、そのノウハウを米国の臨床薬剤師から直接学ぶことを目的として、若手病院薬剤師を海外の医療・薬学教育現場に6ヵ月未満の期間で派遣し実地研修させること(海外派遣事業)と、海外から臨床薬剤師を招聘し、直接指導を受けるとともに日本の医療のシステムや病院薬剤師の業務を研修していただくこと(招聘事業)の2本立てである。2006年度からの課題は、薬学教育の六年制への移行に伴い「薬剤師の専門的資質の向上および実務実習の在り方等に関する研究」となっている。2005年および2006年度の本事業による派遣者および招聘者を表1、2に示す。派遣者はこの2年間で8名であり、事業が始まって以来41名の若手病院薬剤師を海外に派遣したことになる。派遣先国はすべて米国であった。言うまでもないが、本事業は病院薬剤師の資質の向上を目的としている。派遣された薬剤師は、帰国後、海外で学んだ知識と技術を多くの病院薬剤師に還元する必要がある。しかし、本派遣事業を利用して海外で研修を受けた薬剤師が、帰国後すぐに病院薬剤師業務を離れ薬系大学に就職するケースが多くなり、2006年度より、派遣の条件として帰国後2年間は病院薬剤師として勤務することを義務づけた。

表1 派遣者と派遣先一覧(2005～2006)

派遣者氏名	所属	派遣先(受け入れ研究者氏名)
2005年度		
阿部 真治	徳島大学附属病院	University of North Carolina (Dennis M. Williams)
平田 純生	医療法人白鷺病院(応募時)	Oregon State University (Myna Y. Munar)
梅村 雅之	名古屋大学医学部附属病院	Univ. of Mississippi Med. Center (H. Joseph Byrd)
黒崎いづみ	群馬大学医学部附属病院	Univ. of Arizona (Michael D. Katz)
小野 尚志	旭川医科大学病院	Univ. of Mississippi Med. Center (H. Joseph Byrd)
2006年度		
鳥居真由美	徳島大学附属病院	Univ. of North Carolina (Dennis M. Williams)
岩本 卓也	三重大学医学部附属病院	Univ. of Mississippi Med. Center (H. Joseph Byrd)
石塚 雅子	名古屋大学医学部附属病院	Univ. of North Carolina (Dennis M. Williams)

敬称略、派遣者の所属は派遣時

表2 招聘者と受け入れ地域 (2005～2006)

招聘者	所属	受け入れ地域 (責任者)
2005年度		
Rodney A. Carter	Univ. of Minnesota	関東・四国 (荒木博陽)
Donald T. Kishi	Univ. of California at San Francisco	東北・北海道 (松原和夫)
H. Joseph Saseen	Univ. of Colorado Health Sciences Center	近畿・北陸 (川上純一)
Rathel L. Nolan	Univ. of Mississippi Med. Center	九州 (山田勝士)
Tina M. Brock	Univ. of London	東海 (鍋島俊隆)
2006年度		
Henry I. Bussey	The Univ. of Texas at Austin	北陸 (川上純一)
Robert E. Smith	Auburn Univ.	東北・北海道 (松原和夫)
Shirley Hogan	Univ. of Mississippi Med. Center Dept. of Pharmacy Services	九州・中国・四国 (山田勝士)
Robert B. Parker	Univ. of Tennessee	関東・信越 (山本康次郎)
Kimberly A. Galt	Creighton Univ.	東海・近畿 (鍋島俊隆)

敬称略

一方、外国人研究者受け入れ事業はおおむね5名を基準として欧米より研究者を招き、全国各地で講演会および実施指導を行っているが、2006年度まででこの事業が展開されていない空白県は佐賀県と大分県の2県のみとなった。

2007年度は、応募期間は5月15～31日で、現在選考中である。実際の派遣および招聘は9月以降となる予定である。

FIP等の国際・海外の学会への派遣

国際交流委員会の仕事の大きな柱として、International Pharmaceutical Federation (以下、FIP) に病院薬剤師を派遣し、日本の病院薬剤師業務に関する講演を行うことがある。また、American Society of Health-System Pharmacists (ASHP) やFederation of Asian Pharmaceutical Associations (以下、FAPA) などの学会へ日本の病院薬剤師、特に若手の薬剤師を派遣して、我々の活動を紹介することも重要な仕事である。FAPAは2006年11月に横浜で開催され、日病薬が全面的に協力した。また、これを機に、日本の病院薬剤師活動を紹介する英文のパンフレットを作成した。各学会への派遣者は表3の通りである。2007年度も同様に派遣事業を行う予定である。なお、現在のFIPの病院薬剤師部門副会長は、鹿児島大学医学部・歯学部附属病院薬剤部長の山田勝士氏である。

表3 海外の学会への派遣者

学会名	開催日・開催地	派遣者・演題名
第65回FIP	2005年9月3～8日 カイロ (エジプト)	佐々木均 (長崎大学医学部附属病院薬剤部) Changes of education and manpower in Japan.
第66回FIP	2006年8月25～31日 サルバドール (ブラジル)	五味田裕 (岡山大学病院) Seamless care in Japan.
第40回ASHP ミッドイヤー臨床薬学会	2005年12月4～8日 ラスベガス (米国)	内藤隆文 (浜松医科大学医学部附属病院) Effects of calcineurin inhibitors on pharmacokinetics of mycophenolic acid and its glucuronide in renal transplant recipients.
第21回FAPA	2006年11月18～21日 横浜 (日本)	大石了三 (九州大学病院) Development of professional activities to secure the safety and effectiveness of drug therapy.

敬称略, 派遣者の所属は派遣時

JICA集団研修「病院薬学コースII」

これまで、全田浩前日病薬会長と加賀谷肇日病薬常務理事が全面的にサポートされてきたJICAの集団研修を、2007年度から国際交流委員会が受け持つことになった。現在、コースの見直し、および研修受け入れ病院の選定を行っている。

おわりに

国際交流委員会の事業に興味をお持ちの方は、日病薬ホームページのアナウンスに従ってご応募下さい。また、不明の点は下記までお問い合わせ下さい。

問い合わせ先: 旭川医科大学病院薬剤部 松原和夫 kmatsuba@asahikawa-med.ac.jp

謝辞

国際交流委員会の各事業にご尽力をいただきました諸氏に、この場を借りお礼申し上げます。